



持続可能な
インパクトを
生み出そう



2026-27 年度 RI メッセージ
国際ロータリー会長
オンラインカ・ハキーム・ババロラ氏

Weekly Bulletin

藤枝南ロータリークラブ 会報



例 会：毎週金曜日
会 場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
T E L：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内
T E L：054-646-3919 F A X：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

2026-27 年度
会長：桑原 茂 副会長：望月 誠 幹事：杉浦 聡 副幹事：杉山茂範

例 会 第 1 6 4 2 回 通常例会/小杉苑

ソング：それでこそロータリー、われは海の子 ソングリーダー：中野歩惟君

■ 会長挨拶

桑原 茂君



皆さん、こんにちは・・・

まずもって、本日は藤枝クラブより村松会長と菅原幹事、武田幹事がお見えになっております。

お忙しい中、ありがとうございます。

村松会長には後ほどご挨拶をいただくことになっておりますのでどうかよろしく願いいたします。

実は、私は今週 15 日の水曜日に藤枝クラブさんへご挨拶に伺ってきました。

先日緊張の中、南クラブで挨拶を終えたばかりではありましたが、今回も引き続きの緊張の中でのご挨拶でした・・・

ただ、同じ藤枝市内のクラブであり、また、お顔を知っている方も多く、もちろん、親クラブでもあり、親近感が一番ある藤枝クラブさんではありますが、例会の内容が南クラブとは違う部分が多々ありました・・・

まずは食事が 12 時 10 分くらいから始まり、例会が 12 時 30 分開会の点鐘、エレクトーン演奏ではないソングが始まり、次にクラブビジョン唱和というものがあり、次に四つのテストの唱和、

そして、会長挨拶、幹事報告、スマイル報告、卓話と続きます・・・今週の一言はありません・・・

そして、卓話の時間も我々の 30 分ではなく、40 分～45 分くらいになるのでしょうか？

やはりそれぞれのクラブにはそれぞれの運営スタイルがあるのですね・・・

メイキャップで他のクラブの例会に参加された経験がある方はそれを実感していたかと思いますが、メイキャップをしてそれぞれのクラブの違いを感じてみるのも良い経験になるかもしれません・・・

さて、報告ですが、7 月 11 日の静岡新聞に我が藤枝南ロータリークラブの若林秀典ガバナーと地区幹事の竹田敏和さんが 10 日、静岡県庁に鈴木康友県知事を訪ね、静岡山梨両県のロータリークラブで構成する国際ロータリークラブ第 2620 地区の代表となるガバナー就任を報告したと記事になりました

（以下新聞に掲載されている文面を読ませてください）

ガバナーは大都市からの選出が多い中、若林さんは『地方からガバナーを出そうということで喜んで受けた』とあいさつ。

『会員が会社と家族と健康を大事にして奉仕活動に励めるようにしていきたい』と意欲を語った。同地区の会員が集結する地区大会を 10 月 24、25 日に藤枝市の県武道館で開催することも報告した。

2620 地区は 4 月末時点で、両県の 73 クラブ 2823 人が活動している。

以上のように掲載されています。

お二人の顔写真も掲載されていて、また、二人ともなかなかいい感じに映ってますので後で回覧しますので見ていただければと思います。

いよいよこうしてガバナー年度のスタートしたことをこれからも皆さんと共有していきたいと思います。
それでは、本日もよろしくお願いいたします。

■ 藤 枝 R C 会 長 挨 拶



藤枝ロータリークラブ会長 村松繁様

皆さん、こんにちは。

本日は、藤枝ロータリークラブより、幹事のお二人とともに伺っております。例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

ただいまご紹介いただきました、藤枝ロータリークラブ会長の村松繁でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私は焼津市東小川で、生命保険と資産運用を中心とした会社、アイマークを経営しております。日頃は、お客様の人生設計や資産形成にかかわる仕事をしてありますが、ロータリーにおきましても、人と人のご縁を大切にしながら、一年間務めてまいりたいと考えております。

本日は、心強い幹事二人も同席させていただいております。

まず一人目は、菅原慎司さんです。菅原さんは、ご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、御庭工房という外構工事の会社を経営しておられます。住まいの外まわりを整えるお仕事を通じて、暮らしに彩りと安心を与えておられる方です。ロータリーにおいても、誠実なお人柄で、私の会長職を陰で支えてくださっています。

そしてもうお一人が、武田浩英さんです。武田さんは、なかなか肩書きが豊かでして、「歌う中小企業診断士」という顔を持ちながら、同時にライフプラザパートナーに所属する保険募集人としてもご活躍です。経営を診る目と、人の人生設計に寄り添う視点の両方を持っておられる、大変ユニ

ークで魅力的な方です。今日は歌はありませんが、存在感は十分だと思っております。

さて、藤枝南ロータリークラブの皆様におかれましては、本年度、国際ロータリー第 2620 地区ガバナーとして若林秀典ガバナーを輩出されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

ガバナーを輩出されるということは、大きな誇りであると同時に、クラブとして大きな責任とご苦労も伴うことと拝察いたします。まさにクラブの総力が問われる一年になろうかと思いますが、その重責を担われておりますことに、あらためて敬意を表したいと思っております。

藤枝ロータリークラブといたしましても、決して他人事とは思っておりません。地区への出向者として、山田賀昭会員、平野純也会員が地区幹事を務め、さらに江崎晴城会員が地区大会実行委員会に加わっております。こうした出向者の皆さんを中心に、私たち藤枝ロータリークラブの会員一同も、できる限りのお手伝いをさせていただきたいと考えております。

特に 10 月 24 日、25 日の地区大会が、実り多く、そして心に残る大会として大成功を収めますよう、出向者はもちろんのこと、私たちクラブメンバーも精いっぱい力を尽くしてまいります。藤枝南ロータリークラブの皆様と、同じ地域のロータリアンとして力を合わせ、この大きな節目をしっかり支えてまいりたいと思っております。

私事になりますが、藤枝青年会議所時代に、南クラブ会長の桑原茂さんと大変親しく活動をともし、それ以来、家族ぐるみでお付き合いをさせていただいております。会長になるにあたり、お互いに連絡を取り合い、子ども食堂への寄付については、継続して、できれば一緒に活動していきたいですねと確認しました。そのような友人と会長年度をともにできることも、私にとっては大きな喜びであります。

本日は、こうして訪問の機会を頂戴しましたことに、あらためて感謝申し上げます。藤枝南ロータリークラブのますますのご発展、そして若林ガバナー年度、桑原茂会長年度の大きなご成功を心よりご祈念申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

出席報告

中村秀樹君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
41/53 77.35%	47/53 88.67%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○植田君○川口君○小嶋君○鈴木照君
○鈴木健君○竹田君○富澤賢君○富澤静君
○中山君○早川君○古川君○松浦君

(1)メイクアップ者

漆畑雄一郎君(地区) 小嶋英公君(地区)
富澤賢一君(地区) 富澤静雄君(藤枝)

食事準備数	食事提供数	残	累計残
46	46	0	1

パーフェクト例会数: 😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

スマイルBOX

中村秀樹君

- ・本日、藤枝ロータリークラブより村松繁会長、菅原慎司幹事、武田浩英幹事が当例会にお見えになって下さいました。後ほど会長にはご挨拶を頂きます。宜しくお願いします。

桑原茂君

スマイル累計額 72,000円

ビジター

藤枝ロータリークラブ

会長 村松 繁 様
幹事 菅原慎司 様
幹事 武田浩英 様



会員卓話

山田壽久君



皆さん、こんにちは
本日は、会員卓話の指名をいただき「これまでの人生でのインパクトな出会いや出来事」をテーマにいただき

ました。

大学を卒業してから 50 年以上が経過いたしました。卒業後に、大変 衝撃的な一人の作家に出会いました。小説家の名前は、落合信彦と申します。43 年前にその作家の小説『ただ栄光のためでなく』は、私にとって単なる読書体験ではなく、生き方そのものに影響を与えた特別な一冊でありました。

小説の中の主人公 佐伯 剛は、幼い時、孤児院で育ち、決して恵まれた環境ではありませんでした。しかし、その境遇に負けることなく、自らの力で世界へ飛び出し、石油ビジネスの世界で成功を掴んでいきます。

その圧倒的な行動力・逆境を跳ね返す精神力・そして常に大きな夢を追いつける姿に、若かった私は強く憧れました。物語では、1967 年の第三次中東戦争を背景に石油をめぐる国際政治や、民族対立、国家の思惑が複雑に描かれています。

佐伯の親友である、イスラエル人 サイモンは、祖国イスラエルへの忠誠と友情の狭間で苦悩し、やがて佐伯を裏切る決断を下します。その場面は国家や信念が個人の友情を超えてしまう現実の厳しさを感じさせ、今でも強く印象に残っています。

そして、この小説を読んで私が最も影響を受けたのは、佐伯が愛飲するバーボン「ワイルドターキー」でした。

作中で、描かれる佐伯の豪快で自由な生き方に憧れ「いつか自分もこんな男になりたい」と思いながら、初めてワイルドターキーを手にとった若い頃は、その一杯を飲むことで、まるで主人公の佐伯と同じ世界を少しだけ共有できたような気持ちになったものでした。

今振り返れば、憧れていたのはその酒そのものではなく、困難な状況でも前を向き、世界を相手に挑戦し続ける佐伯の生き方だったのだと思います。ワイルドターキーの香りに触れるたびに、

『ただ栄光のためでなく』で描かれた友情・裏切り・信念そして、挑戦の物語が鮮やかに蘇ってきます。

小説『ただ栄光のためでなく』は、成功や栄光だけを追い求めるだけでなく、人は何のために生き、何を信じて行動するのかを、問いかける作品であります。

そして、私にとっては「ワイルドターキー」の一杯と共に、青春時代の憧れを思い出させてくれる、かけがえの無い小説であります。

是非、機会があれば一読していただき、感動を共有したいと思います。

渡辺哲朗君



北穂高の山小屋

私が大学4年の夏休みに、今から56年前のことだが、北アルプスの穂高岳に北穂高の山小屋があるが、そこでひ

と夏アルバイトをやることになった。穂高は日本で最も人気がある山で、そのアルペン的な美しさに惹かれ、多くの登山者やクライマーが訪れる。上高地から眺める穂高はとても素晴らしい。いつ見ても絵になる景色だ。私も穂高のアルペン的な美しさにインパクトを受けて、穂高の山に行くようになった。

穂高には四つの穂高があり、奥穂高が3190mで一番高く、他に北穂高、前穂高、西穂高がある。その中で北穂高には滝谷という日本有数の岩場があり、当時岩登りにハマっていた自分は北穂高の山小屋で、アルバイトをすることになった。

7月の初めに山小屋に入った。山小屋は北穂岳山頂から5～6mすぐ下にあり、標高は3100mの所にある。小屋では夏でもストーブを焚いて、厚手のセーターなしでは寒い。

7月の前半の山小屋は、客はほとんどいない。いても5～6人だ。夜は山小屋の人達やお客さんと酒を飲みながら、山の話で盛り上がる。ゆったりとした時間が過ぎ、この頃の山小屋はとてもいい。

しかし、梅雨が明けて7月後半になると、客はだんだん増えてくる。特に8月初めからお盆までがピークだ。山小屋の定員は80名。定員といっても布団1枚に二人寝るのが定員だ。

ピークの時は定員80名の小屋に倍以上の200名が泊まったことがある。そうすると山小屋は

戦争状態で、1枚の布団に4人寝かせなければならない。それが私の仕事だ。1枚の布団に4人が互い違いに半身になって刺身のような状態になって寝る。それでも納まらないので、お客さんには可哀そうだけど、グイグイ押しまくって、何とか寝かしつける。

お客さんは朝までそのまま我慢しなければならない。トイレに行こうものなら自分の寝場所がなくなってしまう。山小屋は、人命保護のため、どんなに満員でも宿泊を断ることができないそう。最盛期の山小屋には泊まらないほうがいい。

山小屋のお客さんの食事はカレーだ。ただ我々山小屋のスタッフの食事はもう少しいい。

ジンギスカンなどの肉料理が多いが、たまに鮭の寿司が出ることもあった。お客さんは一晩だけだが、スタッフは長期戦なので、食事のメニューはいろいろ工夫をしている。

山小屋は食料や燃料を大量に荷揚げをしなければならない。ほとんどの物資は上高地からヘリコプターで北穂の山頂に上げている。当時トン5万円だと聞いた。それでも時々物資が不足することがある。その荷揚げ（ポッカ）は私の仕事だ。私は荷揚げを苦痛と思うどころか楽しみにしていた。毎日小屋にいると外に出たくなる。荷揚げの朝、私は嬉しそうな顔をして小屋を出て、標高差1500m下の横尾という小屋まで下る。そこで背負子に40キロ位の荷物を積んで北穂まで登る。行きはルンルンだが、帰りはヨレヨレになって山小屋にたどり着く。

北穂の山小屋は1948年（昭和23年）に社長の小山義治さんによって開かれた。当時、すべて人力で資材を運び上げて建設したという。すごいことだと思う。穂高の岩壁に魅せられて山小屋を建設するという自分の夢を叶えた人だ。小山さんは当時、山の世界では知られた人で、いろんな人が山小屋にやってくる。登山家といわれる人や山岳写真家、画家やマスコミ関係者、松本市内の友人知人。私はそういう人達といろいろ話をさせてもらって、とても楽しい時間を過ごすことができた。今思えば貴重な体験だったと思う。

山小屋の小屋番は岸さんという山形出身のひげ面の山男で、奥さんと一緒に山小屋を切り盛りしている。頑丈な身体でどんな仕事もこなす。小屋番はマルチ人間でないと務まらない。

もう一人次田さんという岩登りのプロガイドがいる。当時日本では、山のプロガイドは珍しい存在で、山の世界では話題になっていた。彼は7月

はヨーロッパアルプスに出掛けていて、8月に山小屋に戻ってきた。社長、岸夫妻、次田プロ、この4人が山小屋のレギュラーメンバーで、あとは我々アルバイトが4、5人いる。私の仕事はゴミ焼きと便所の掃除だ。

7月、8月の2ヶ月間山小屋にいたが、風呂に入ったのは2回しかない。山の頂上にある小屋なので水は貴重だ。水は天水（雨水）を使用している。月に1回しか風呂に入らないのはずいぶん汚い話だが、3000mは気温が低く、乾燥しているので、あまり気にならない。

山小屋の裏側に滝谷がある。滝谷は日本で屈指の岩場であり多くのクライマーが訪れる。

滝谷で岩登りをする人たちは、山小屋には泊まらない。近くのテント場にいるか、下の涸沢のテント場から登ってくる。

私が山小屋にいた時、滝谷で3件の事故があった。一人が死亡、二人が重傷を負った。死傷者は北穂の山頂からヘリコプターで運ばれた。事故を起こしたパーティーの中には、山岳同志会という当時日本で最も先鋭的な会もあった。

お盆休みも終わり、小屋も少し暇になった頃、次田プロが私を滝谷に連れていってくれた。四尾根という中級クラスの代表的なクラシックルートを登った。次田プロの軽快なクライミングを下から見ながら、私も楽しい岩登りをすることができた。

8月の終わり、山小屋を下りることになった。いざ下りるとなると少し寂しさが湧いてきた。それでも解放された気分楽しく上高地に下りて行った。上高地でスカートをはいた女性というものを見て、私は思わず感動の涙を流した。

今週の一言

渡邊博文君



今年度、RI 2620地区の地区大会を開催するにあたり、県武道館に藤枝市を介してのお願いに上がりました。

ロータリー活動にご理解をいただき、もろ手を挙げて受け入れていただけたと思いましたが、まさかの展開が待ち受けていました

館長曰く「ロータリークラブに武道館使用の資格はありません、登録されているスポーツ団体の使用が優先されます」

「ロータリークラブに信用がありません、藤枝市が担当部署を持って、担当者を決めて使用にあってほしい」

「館内でのお酒を含んだ、懇親会は禁止です。臭いが残ります」

「藤枝市の産業祭の予定を変更し開催されるのなら、地域住民への公共性を重視した内容にしてください」

「地域住民から苦情が起きないように、お願いします。苦情はすべてこちら（武道館）に来ますから」

などなど、大変「インパクト」があった交渉願いでした

今後、地区大会開催にあたりどんな「インパクト」がある出来事が待ち受けてくるか、みなさまのお力をお借りして、成功に向けて乗り越えて参りたいと思います

例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
7/24(金) 第 1643 回	青少年交換留学生	小杉苑
8/7(金) 第 1644 回	会員卓話	理事会
8/21(金) 第 1645 回	納涼夜間例会	小杉苑
8/28(金) 第 1646 回	ガバナー補佐訪問	小杉苑



米山学友会 第18期通常総会
米山奨学生交流会 2026.7.12



(担当/森下様君)